

新しい 多様な家族像を

自然科学研究機構
基礎生物学研究所長

勝木 元也 氏



教育随想



平成17年12月1日

12月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
自然科学研究機構 基礎生物学研究所長 勝木 元也氏	
この人に聞く	2
元女子バスケットボール 日本代表アシスタントコーチ 小牟禮育夫氏	
羅針盤	2
矢作北中学校長 明保 俊通	
ふれあい	3
根石 小 手島 露子	
特集	4
アイデア広がる 読み聞かせボランティア	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
全三河オリムピック大会優勝 (大正14年)	
この本を	8

街に小さな子供たちの姿がめっきり少なくなりました。少子化と騒がれだして久しくなりますが、出生率一・二九と聞いても、なにかびんときません。しかし、街から元気な子供たちの声がなくなり、車の騒音と忙しく走りまわる人々の気ぜわしさが目立つ時代は、やがて年老いた世界を予感させ、不安にさえなります。

昨年、我が国に約一〇万人の子供が生まれたそうです。仮にこのまま毎年一〇〇万人前後の子供しか生まれないとすれば、六十年後の六十歳までの人口は、約六千万人です。かつて二〇〇万人前後の子供たちが毎年生まれた結果、現在の一億二千万人を越える人口が我が国の現状を支えていることが分かります。もちろん母親になる女性の数が減っていけば、やがて一〇〇万人を割る出生児数になるでしょうから、六十年後

の人口が半減する可能性は実感として理解できます。何だか怖いような不安な気持ちになってきます。

そのため、働く女性が子供を持ちやすく、わが子に期待することができ、社会を具体的に描いた政策が、試行錯誤の末、実行され始めました。

しかし、この本質は、かつての家族像が普遍性を失ない、崩壊し、新しい多様な家族像がまだにしっかりと根づいていないことにあるのではないのでしょうか。子供は、まず家族の一員として愛されて育ちます。愛されて育つた子供は、やがて周囲

の子供たちとともに、生まれてきた弟や妹を、街の一員として可愛がって育てます。こうして家族はやがて街中に広がって、安心できる社会がつくられると信じられてきました。

少子化の結果、我が国の活力が落ち、高齢化社会の維持が困難になることばかりが語られています。社会対策だけでは、この問題は解決しそうにありません。人それぞれが家族の大切さ、あり方について自信をもつことこそ、街に子供たちの姿が戻ってくる鍵ではないでしょうか。

(かつき もとや)





夢・情熱・感謝

元女子バスケットボール
日本代表アシスタントコーチ

小牟禮 育夫 氏

「日本代表になる人は、人間性も一流なんです。今バスケットができるのはみんなのおかげと言える選手が一流といえます。」

アトラクタオリンピックピックの日本代表や実業団でバスケットボールのコーチをされてきた、小牟禮育夫氏に話を伺った。

「実業団では、バスケットを教える前に、社会人としての礼儀を教えます。形だけのあいさつではなく、心からのあいさつができるように教えます。」



す。さらに、プライドを持ちなさいと言います。プレーだけでなく、人間としても一流になりなさいと教えます。そして、人に対する感謝の気持ち、バスケットができることに感謝する気持ちを育てていきます。」

コーチ時代を振り返り、指導の根本をこのように話された。そして、指導者、選手に対しては、情熱を持って取り組むことの大切さを語られた。

「指導する人は、自分の信じたことを貫き通すことが大切です。信じたいものが力になってきます。そして、選手は、集団の中の個で満足するのではなく、自主性を持たなくてはなりません。そのためには、自分で考え、自分で学び、自分でやっていき、自分のものにする必要があるになってきます。」

また、バスケットでも勉強でも目標を持つことが大切であると話をされた。

「目標は勝つことだけ、優勝することだけではないと思います。一〇〇対二十で負けたら、次は八十対五十になることを目標にしたらい。達成感を味わうことが大事です。それで、モチベーションが上がります、さらに上を目指そうという気持ちが湧いてくると思います。勉強も同じですよね。」

実業団のコーチ時代、勝てない時期も目標を持たせて戦わせたことを笑顔で語られた。

そして、子供たちや教員にもメッセージをくださった。

「子供に対しては、今やっていることに無駄なことはないと伝えたいですね。どこかで必ず今やっていることが役に立つのです。そして、何がやりたいかを見つけてほしい。夢を見つけてほしいです。それを教える先生や大人にも夢を持ってほしいですね。今もわたしは夢を持っているのですよ。」

好きな言葉は「夢・情熱・感謝」。氏の指導がすべてつまった言葉であると感じた。

氏名 小牟禮 いくお
生年月日 昭和三十六年七月十八日
住所 牧御堂町字水洗八十一



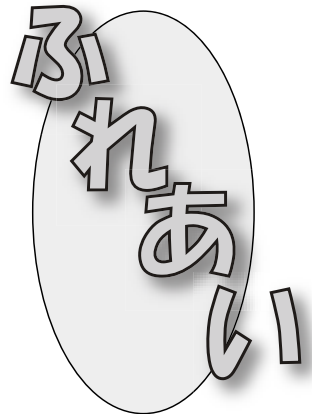
理科離れを思う

矢作北中学校長 明保 俊通

すべてを失った敗戦後を思うと、我が国は本当に豊かになった。このすさまじい産業や経済の発展をもたらしたのは、科学技術のたまものであり、これまでの理科教育の成果と言っても過言ではなからう。

過日、名古屋大学年代測定総合研究センター長の鈴木和博教授にお会いする機会を得た。そこで、ノーベル賞を受賞された野依良治博士の研究に対する厳しさを聞いた。一例をあげると、土・日曜日、研究室に來なかつた学生の机やいすが外に放り出されたり、研究に専念させるため、学生たちが教育実習を行うことを許さなかつたりすることもあつたそう。このような厳しさが、我が国を科学技術大国にした要因の一つであろう。

我が国は資源小国である。だから科学技術を発展させることによって、



魂を揺さぶる力

根石小 手島 露子

「音楽には魂を揺さぶる力がある」指揮者小澤征爾の言葉だ。そして、全日本音楽教育研究会小・中学校部のテーマ「いま音楽に夢中ひるがる学びのステージ」。様々な音楽経験が、何ものにも代えがたい感動に直結している。そのことを、子供たちと一緒に味わいたくて、いろいろと試行錯誤を重ねてきた。

「先生、メトロノームとトーンチャイム借りるからね」と、勢いよく教室を飛び出していく子供たち。今回挑戦したのは、三声のカノン（輪唱）である。以前にも同じようなものを歌ったことがある彼らは、すぐにマスターできると意気揚々と練習に取りかかった。出だしをずらすだけで美しいハーモニーが生まれるのがカノンの良さのはずだが、今回歌う『夕方の海』は少し意地悪なしかけがあ

る。それは、弱起じやくきで始まる三拍子。「イッセーノーデ」と、四拍でカウントして歌い始めた途端に崩れてしまう。何となく小節の頭を意識しても、一向に合わない。音楽は得意だと自信たっぷりだった子も、しょんぼりとなった。

そこで、「今までの経験や学習を思い出してみて。あなたたちなら、絶対に歌えるようになるはずだよ」と声をかけた。

「あれっ。先生、それヒントかな。」子供たちは、過去の楽譜やワークシートを片手に、必死になって歌えない原因を探り始めた。その時A子が、出だしの音が三拍目から始まっていることにいち早く気づいた。しかし、引込み思案の彼女は、どうやってそのことをみんなに伝えたらよいものか、躊躇ちゆうちゆしていた。三角形を描くように手を動かしながら、もじもじしている。

「A子ちゃん、先生に指揮してみてください。それで一緒に歌ってみようよ。」と投げかけると、A子はおずおず手を動かしながら歌ってくれた。近くで見ていた子供からも、納得顔が見え始め、まるで堰せきを切ったように、鋭い意見が次々飛び出した。小節内の拍数を調べようと提案するB子。歌う速さを変えてみるべきだと言う

C男。伸ばす音の長さをカスタネットネットで合図した方がよいと言うD子。熱くなって自分の考えを訴える様子は、ほほえましくもあった。さらにここまできると、ただカノンの形で歌うことだけでは満足できなくなってきたようだ。極上のハーモニーを追求すべく、強弱や発声にもこだわ

り始めた。みんなと同じ楽譜を見たという意見から、大きなオリジナル楽譜も登場した。

「じゃあ、お互いのグループの音楽を聴き合ってみようか。」歌い始めた子供もさることながら、聴いている方の顔が傑作だ。全員が口をぽかんと開けて耳を傾けている。まるでかわいいひな鳥のようである。そこには、ただただ純粹に音楽に魂を揺さぶられる姿があった。



国際競争力を高めようと努力してきた。二十一世紀も基本的条件は変わらない。ところが、我が国の先行きを考える時、現在の日本人は慢心し努力を怠り、実に心もとない。最近の日本人の行状を見てみると、ローマ帝国崩壊前夜と酷似していると思

一方、我が国の科学技術は、もともと欧米で長時間かけた創造的基礎研究の成果を導入して発展させた、「もの真似」技術といわれる。それがここまで発展し得たのは、欧米の先行技術を、日本人の教育レベルの高さと勤勉さが進歩・発展させたからであろう。

我が国が繁栄し続けるには、技術力に一日の長がある今のうちに、先行投資をしておかなければならない。それは科学の創造的基礎研究の推進であり、それを支える理科教育の充実である。

今日、多くの子供の中で起こっている「理科離れ」こそ我が国の将来を暗くするものと言えよう。現在の我が国の教育事情は、心配なことが多い。それらは学校だけの問題ではなく、みんなで考え直してみる必要がある。その口火を切るのは、我々教師の責務ではないだろうか。

アイデア広がる



読み聞かせボランティア

▲ 絵本に食い入るまなざし (「ほしの木よむよむ」緑丘小)

「読書は考える力、感じる力、表す力を育てるうえで中核となる。読書習慣を身に付けることは、一生の財産として生きる力となり、楽しみの基ともなる」と、文部科学省文化審議会は、平成十六年二月三日の答申で読書の意義を強調する。

本市では「豊かな心を育てる教育」「開かれた学校づくり」の一環として、各幼稚園や小学校を中心に読み聞かせボランティアによる活動が盛んに行われている。竜美丘小学校のように長年にわたって活動を積み上げてきたグループもあるが、ここ数年の間に活動を始めたグループが多い。のびのび紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・人形劇など、工夫を凝らした読み聞かせも登場し、子供たちの興味をひきつけている。また、図書室に入れる本の選定や受け入れ事務・配架・整備、読書通信の発行と、ボランティアの活動は多岐に広がりを見せている。

各校アンケートから「読書への興味が増し、本好きの子供が増えた」「子供の聞く姿勢がよくなり、聞き取る力や音読の力が向上した」「読書指導に対する教職員の意識が高まった」「学校の様子を広く保護者に紹介でき、子育ての情報交換が行われている」などの声も聞かれ、読み聞かせボランティアの活動は確実に実を結んでいる。

また、岡崎市立図書館では、昭和五十六年ごろからボランティアによる読み聞かせが行われており、読み聞かせボランティア養成講座も開講されている。

今後、多くのボランティアの力を得て、子供たちを本の世界に導き、豊かな心を育む推進力になっていくことを期待したい。



▲ 大型絵本 (「ひよこの会」矢作幼)

幼稚園では



図書館では

▲ 毎週土曜日 児童対象 (「お話の森ころころくまさん」市立図書館)



▲ 屋外での紙芝居（「ぐるんぱ」連尺小）



▲ のびのび紙芝居（「本読みおばさん」竜美丘小）

小学校では

読書活動が盛ん

シニアサークル



▲ エプロンシアター（「トトロの会」広幡小）



▲ 人形劇（「きらら」矢東小）



▲ パネルシアター（奥殿小）



▲ 台本作り（「樹げ夢の会」大樹寺小）



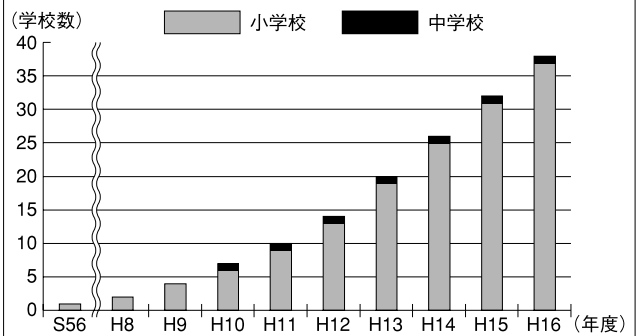
▲ 役割読み（「絵本の宅急便」羽根小）



▲ 秋の読書週間（「南中読み語りの会」南中）

中学校では

読み聞かせボランティアが活動している学校数
（市内60校中）



お知らせ

岡崎市教育委員

委員長 鈴木 聰一（前列 左）
 同職務 大原 憲一（前列 右）
 代理者
 委員 寺部 暁（後列 左）
 委員 畔柳美奈子（後列 右）
 教育長 藤井 孝弘（後列 中央）
 委員長の任期
 平成十七年十一月十七日より一年間



● 教育最新情報

○ 姉妹・友好都市交流事業

本市には、海外に姉妹・友好都市提携をしている都市が三つある。国際化時代に対応し、未来を担う生徒が夢と希望を持ち、広い視野に立って郷土の発展と国際親善を深めるために、これらの都市の中学生を受け入れたり、本市の中学生を派遣したりするとう交流に努めている。

アメリカ・ニューポートビーチ市は、一九八四年に姉妹都

市提携を結び、中学生の交流は今年で二十四回目を迎えた。

中国・呼和浩特市は、一八七七年に友好都市提携を結び、今年でその交流は十七回目を迎えた。それぞれ回を重ねるたびに心温まる友好を深めてきている。

ところで、スウェーデン・ウツデバラ市は、一九六八年に提携をした最も古い姉妹都市である。

一九八〇年九月に十日間、引率教師と中学三年生男女一名ずつの計三名がウツデバラ



▲ ウツデバラ市の使節団市長表敬訪問

市を訪問した。たいへん歓迎していただいたが、当時の諸事情で、一度だけの訪問に終わり、交流が継続しなかった。

一昨年度、ウツデバラ市と岡崎市の姉妹都市提携三十五周年を機に、長年、交流の希望があった両市の意思が統一され、昨年度から岡崎市側の中学生の訪問が再開された。そして、今年度の九月にウツデバラ市の生徒六名と付添教師二名を交流史上初めて受け入れ、相互交流が実現した次第である。

今後、ニューポートビーチ市、呼和浩特市同様に、継続的な交流をし、友好を一層深めていきたい。

● 滞在研修

文部科学省の滞在研修を経験して

藤川小学校 竹内 昭博

夏休みに十二日間、岡崎市で初めての文部科学省初等中等局への滞在研修の機会を得ました。勤務時間は、朝九時三十分から夜六時までです。出勤すると真っ先に配られたノートパソコン（個人パソコンは接続禁止）を立ち上げて、各自の仕事の黙々と進めていきます。サーバーのデータを共有して事務の効率化を図っていました。大方は、夜九時過ぎまで仕事し、真夜中になる日も多いそうです。

私は、お手伝いをしながらいろいろなことを教えていただきました。三月に全国の公立学校で実施した「教育における情報の実態調査」の集計結果が文科大臣の発表に反映されるまでの過程を見たり、教育におけるIT化への九つの施策と歳出概算要求額や、小中高の学習指導要領の中の情報教育の位置付けを学んだりすることができました。

また、次の学習指導要領のための中央教育審議会情報部会を実際に傍聴するという貴重な体験もできました。

心に強く残っているのは、疑問に対し安易に妥協せず納得できるまで徹底的に調べる参事官の姿、各種の出張に対する周到な準備、全国からの訪問やいろいろな問い合わせにきばきと応対する職員の方です。この方たちが日本の教育を支えているのだと痛感しました。

文部科学省の休日には、陰山英男氏や藤原和博氏の講演を聞きに行ったり、研修会に参加したりして、充実した研修ができました。

「e-Japan 重点計画」における国の教育の情報化目標 ※平成14年3月 → 平成17年度

- 教育用コンピュータ整備
11.1 人に1台 → 5.4 人に1台
- 高速インターネット接続
38.0% → 100%
- 校内 LAN 整備
21.1% → 100%
- 教員の IT 指導力の向上
47.4% → 100%



表彰

◆博報賞

文化教養育成部門 文部科学大臣賞
「地域に伝わる御殿万歳とチャラボコ太鼓の継承」 細川小学校



▲ 御殿万歳 (細川小)

●教育活性化部門

「子供・保護者・地域に信頼される学校づくりを目指して」 北中学校

◆第九回東海小学校バンドフェスティバル
朝日新聞社賞とグッドサウンド賞
竜美丘小学校 (全国大会出場)

◆第十回日本管楽合奏コンテスト
全国大会 中学校B部門
優秀賞 矢作中学校

◆第五十九回県発明工夫展
文部科学大臣賞
梅園小四年 都築 千佳

◆第四回全国小学生・中学生マウンテンバイク大会 シマノ鈴鹿レース
優勝 城南小六年 後呂 有哉

◆第十四回全国吟剣詩部コンクール決勝大会
優勝 六ツ美南部小五年 上村龍之介

◆第十二回県中学校カヌー大会新人戦
男子総合優勝 新香山中学校
女子総合優勝 新香山中学校

◆フラワー・ブラボー・コンクール
県教委賞 上地小学校

◆高円宮杯第五十七回全日本
中学校英語弁論県大会
優秀賞 矢作北三年 武田 和浩

◆第十九回県中学生英語弁論大会
最優秀賞 岩津中三年 河西 由香
優秀賞 南 中三年 岩田 周子
優良賞 新香山中二年 藤野晃一郎

◆県中学生アーチエリー大会
●30・30部門女子
優勝 東海中二年 畔柳 まり
二位 東海中二年 平 美香

●18・18部門女子
優勝 東海中一年 鈴木 菜摘
二位 東海中一年 榎原 綾

◆全国小中学校作文コンクール
県代表
優秀賞 美合小六年 平田 響流
佳作 北 中三年 鈴木 泉帆

◆少年消防クラブ員防火作品展
愛知県危険物安全協会連合会長賞
男川小六年 神谷 知里
佳作 羽根小六年 木下 里紗

◆第四回愛知中学生ロボットコンテスト
あの壁を越える部門
準優勝 葵中三年 成瀬 賢希

◆第四十九回愛知県統計クラブコンクール
特 全国総務大臣特別賞
①全国入選 ②全国佳作
●小学校一年・二年年の部 金賞
中根 良太 (矢作東)

●木村 紫帆 (連 尺)
●野澤 瑠莉 (矢作東)
●都筑・齋藤 (六ツ美南部)
●小学校三年・四年年の部 金賞
桐戸 佑香 (連 尺)
細井 碧 (梅 園)

●小嶋・糟谷 (六ツ美南部)
●鎌田 舞 (竜美丘)
●小学校五年・六年年の部 金賞
●稲垣 香奈 (竜美丘)
●杉浦 加奈 (竜美丘)

●川浪 怜子 (矢作東)
●柴田・杉浦 (連 尺)
●成瀬 智子 (連 尺)
●中学生の部 金賞
●石川 新 (新香山)

●西橋・長谷川 (新香山)
●鬼頭沙友子 (竜 海)
●今岡 美晴 (葵)
●植田 美咲 (竜 海)
●小学生以上パソコンの部 金賞
●柴田・三浦 (北)

●特 香村・神野・工藤 (北)
●柴原 耀一 (竜美丘)
●佳 平 和真 (本 宿)
●平岩 剛 (六ツ美北)
※前記以外に、銀賞二十一点と銅賞二十一点、県受賞している。

◆第三十二回市小中学生作文コンクール
最優秀賞 矢作西小六年 水越雄一郎
優秀賞 東海中三年 瀨瀬 安美

◆第二十五回全国中学生人権作文コンテスト 愛知県大会
●名古屋法務局長賞
常磐中一年 加藤 彩乃
●中日新聞社賞
東海中三年 山崎 若菜

◆第五十五回西河中学校駅伝競走大会
●男子 優勝 矢作中学校
二位 葵 中学校
三位 東海中学校

●女子 優勝 南中学校
二位 城北中学校
三位 六ツ美中学校

◆第二回徳川家康公文コンクール
最優秀賞 大門小五年 高原 嘉祥
優秀賞 広幡小一年 竹内健太郎
大樹寺小六年 須見 春奈

◆育て！プリント
コミュニケーションコンクール
最優秀賞 小豆坂小 柵木 弓

◆CBCこども音楽コンクール
中部日本決勝大会 (本大会)
◎は最優秀賞を受賞し、全国大会へ。他は優秀賞受賞

●小学校管楽合奏部門
●竜美丘小学校
◎中学校合唱部門
矢作中学校 矢作北中学校

●中学校重奏部門
◎城北中学校 岩津中学校
●中学校管楽合奏部門
矢作中学校 岩津中学校

●中学校合奏第一部門
城北中学校

●フィリピン人語学相談員
ポルトガル語翻訳兼通訳者

本年度十月より、岡崎ロータリークラブの国際理解教育に対しての補助を受けて、岡崎市で増加してきているフィリピン人児童生徒の支援をする語学相談員として、神谷ジョセリンさんをお願いしている。また、市内の外国人の中で最も在籍が多く、微増が続いているブラジル人児童生徒の就学を援助するために、文部科学省の事業を受託して、ポルトガル語翻訳兼通訳者として、デボラ・ダルシバさんをお願いしている。

二人とも、フィリピン・ブラジルの児童生徒が在籍をする学校の希望に応じて、積極的に活躍している。



▲ 神谷さん (左) とデボラさん (右)

・カ
ツ
ト

六ツ美中 原 田 美和子

全三河オリムピック 大会優勝 (大正14年)

写真提供：奥殿小学校

大正十四年、額田郡岩津村立尋常高等小学校であった奥殿小学校の沿革史には「全三河オリムピック大会」優勝との記録が載っている。最前列のスパイクを履いた選手をはじめ、優勝を喜ぶ人たちのりりしい姿が写真に納まっている。大正時代から、学校の代表が地域の大きな大会に出場して力を競っていたことが分かる。

愛知県では、昭和二十三年に中小学校体育連盟が発足し、組織的な活動が開始された。今も昔も子供たちは競い合って成長していく。そのために各種大会を組織し、充実させたい。



この本を

- * 子どもの可能性を伸ばす学校 長野 雅弘
綜合法令 ￥1575
- * やればできる 小柴 昌俊
新潮社 ￥1260
- * 地方発の教育改革 野口 克海他
三晃書房 ￥1470
- * いのちのリレー 川久保美紀
ポプラ社 ￥1470

* エクスぺリエンツ7・団魂の7人

堺屋 太一
日本経済新聞社 ￥1995

1947年から1949年は、戦後の第1次ベビーブームであった。その時に生まれた人々を「団塊の世代」と呼んでいる。そんな彼らも今や50代後半となり、もうすぐ定年を迎えようとしている。

早期退職を迫られた主人公が、6人の仲間を募り、知識と経験を生かして消滅しかけた商店街の再生にける話である。

「団塊の世代」は、まもなく職から離れ、自分の好きな夢を追える年代になる。

欧州まで広がった鳥インフルエンザ。地球温暖化の影響か、数多くの台風や大型ハリケーンの発生。インド・パキスタンの大地震。世界各地で起こっている爆弾テロなど、今年も様々な問題を抱えて終わろうとしている。来年こそはという気持ちで頑張りたい。

霜枯の草花を尻目に、畑の白菜が元気に育つ。朝晩は随分冷え込み、土も固く締まっている。新緑も良いが、厳しさを増す寒さに耐える緑も、背筋が伸びるような気がして、また気持ちが良い。しゃきつとした歯ごたえのある白菜で、温かい鍋をいただこう。

シオ スア

朝の耐寒駆け足。冷たい空気を切って走る子供たちをたくましく感じる。冬の寒さに耐え、苦しさに耐えることで、健康な体と、強い心を養うことができる。この厳しさに耐えたことを忘れずに、心身ともに強い人間に育つてくれることを願っている。

ストーリーや絵のおもしろさはもちろんだが、ボランティアの方の工夫を凝らした読み聞かせが、子供たちの目を輝かせ、心を揺さぶる。ボランティア参加者の増加と、さらには学校間・グループ間での情報交換が盛んに行われるようになっていくことを期待したい。